平成 21 年５月 12 日

各　　位

会 社 名　　アクモス株式会社
代表者名　　代表取締役社長　飯島秀幸
（ＪＡＳＤＡＱ・コード６８８８）
問合せ先
役職・氏名　執行役員 経営情報管理部長　中川智章
（電話０３－３２３９－２３７７）

当社及び当社子会社における特別損失の発生及び平成 21 年６月期業績予想並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社個別及び連結並びに子会社株式会社ジイズスタッフにおいて特別損失が発生する見込みとなりましたのでお知らせいたします。併せて平成20年８月８日付当社「平成20年６月期決算短信」において発表いたしました平成21年６月期（平成20年７月１日～平成21年６月30日）の連結及び個別業績予想並びに期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

１．特別損失の発生及びその内容

(1) 当社（個別及び連結）

①減損損失（個別）　３７８百万円

（内訳）　株式会社マックスサポート株式　　１８６百万円
　　株式会社エスピーシー株式　　１９２百万円

②減損損失（連結）　３３２百万円

（内訳）　のれん（株式会社マックスサポート）　　８４百万円
　　投資有価証券（株式会社エスピーシー）　　２４８百万円

③内容

景気の悪化に伴い、連結子会社の一部及び持分法適用会社において、収益性の低下並びに資産内容の劣化が発生しております。このため、各社の資産内容及び現状の景気動向に即して見積もった将来キャッシュ・フローの回収額をもとに検討した結果、当決算期において個別では①に掲げる各社の株式について、連結では②に掲げる資産について減損損失を計上する見込みとなりました。

(2) 株式会社ジイズスタッフ

①たな卸資産評価損　１０百万円

②内容

平成 21 年１月９日に発表いたしました「子会社におけるお客様情報等の流出に関するお詫びとお知らせ」に係る環境省の調査は終了しております。その調査の過程におきまして再委託

禁止条項に抵触する株式会社ジイズスタッフの契約違反が明らかとなったことから、一部のプロジェクトについて売上の計上ができないこととなりました。そのため、株式会社ジイズスタッフの平成 21 年３月期の決算において、該当プロジェクトにかかる一部の仕掛品について評価損を計上する見込みとなりました。

２．平成 21 年６月期 通期業績予想の修正

(1) 平成 21 年６月期 通期連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益 円 銭
前回予想（Ａ）	6,500	160	150	50	494.15
今回修正（Ｂ）	5,685	△187	△202	△549	△5,547.30
増減額（Ｂ－Ａ）	△815	△347	△352	△599	―
増減率	△12.5%	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 20 年６月期）	7,376	159	142	△117	△1,152.78

(2) 平成 21 年６月期 通期個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益 円 銭
前回予想（Ａ）	2,800	0	30	20	197.66
今回修正（Ｂ）	2,490	△27	△5	△400	△4,041.75
増減額（Ｂ－Ａ）	△310	△27	△35	△420	―
増減率	△11.1%	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 20 年６月期）	1,359	131	206	205	2,019.16

(3) 修正の理由

売上高が大きく減少する見込みとなった主な理由は、人材事業における株式会社マックスサポート(人材派遣事業)と本社テクニカルリソース事業部(エンジニア派遣事業)の売上が予想を大きく下回ったためであります。株式会社マックスサポートにおいては、積極的に営業活動を行い新規顧客開拓は進んだものの、労働力の過剰感は強く、顧客が自社でアルバイトの採用が容易となったことなどもあり、全体的な派遣稼動人数は減少し、結果として売上高が予想に届きませんでした。また、本社のテクニカルリソース事業部においては、事業開始当初の主なターゲットとしていた派遣先である電機メーカーなどが、急激な業績悪化により開発案件を絞り込んだため、エンジニアリングサービス部門では顧客開拓が予定通り進みませんでした。金融系のシステム会社などネットワーク関連業務を行なっているＩＴサービス分野については、徐々にではありますが、業務領域が広がっておりますが、エンジニアリングサービス部門の不振を補えず、売上予想を大きく下回っております。

その他各子会社においても、景気の悪化に伴い、情報技術事業においては新規開発案件の減少、請負単価の引下げ傾向などの影響がみられております。人材事業でも労働市場における労働力の過剰感がみられることから、企業の人材採用意欲が大きく落ち込んでおり、第４四半期において

も収益の回復は難しいものと思われます。

このような事業環境の変化及び「１．特別損失の発生及びその内容」の損失計上見込み額を踏まえ、精査いたしましたところ、売上高は、連結・個別ともに予想を下回る見込みとなりました。販管費の圧縮につとめましたが、売上高の減少を補えず、営業利益、経常利益ともに予想を大きく下回る見込みとなりました。また、当期純利益においても、特別損失の計上の影響が加わり、予想を大きく下回る見込みとなりました。

３．配当予想の修正

当社は、株主様等当社のステークホルダーの皆様に対する利益還元策を重要な政策として認識し、企業価値の向上に努めております。配当については連結当期純利益に対する配当性向30%を目標に、安定的な配当を実現できるよう財政基盤の強化に努めております。

しかしながら、当期は個別及び連結において大幅な損失となることが避けられない見通しとなったことにより、当初１株当たりの期末配当金を300円00銭（年間配当金300円00銭）と発表しておりましたが、誠に遺憾ながら今回無配（年間配当金0円00銭）と修正させていただきます。

	１株当たり配当金				
（基準日）	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期　　末	年　　間
前回予想 （平成 20 年 8 月 8 日発表）	円　銭 －	円　銭 0.00	円　銭 －	円　銭 300.00	円　銭 300.00
今回修正予想	－	0.00	－	0.00	0.00
当期実績	－	0.00	－	－	－
前期（平成 20 年６月期）実績	－	0.00	－	300.00	300.00

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

以　　上